

京都デザイン&テクノロジー専門学校

南山城村フィールドワーク映像制作 — 「色」が語る村の物語

受賞：地域連携賞

■ 発表概要

京都唯一の村・南山城村からの依頼を受け、「単なるPR映像ではなく自分たちにしかできない映像を」という挑戦に取り組んだ。撮影3日・編集約1ヶ月をかけ、村の人々の個性を「色」で表現した4本半の映像を制作。

■ 制作の経緯

チーム構成

- ・1年生1名・2年生3名・3年生1名の計5名
- ・全員カメラ好きという共通点
- ・依頼内容：ソフトクリームや観光スポットのPRではなく「僕たちにしかできない映像」

テーマ設定

- ・最初の印象：「緑の村」
- ・ロケハン（現地調査）で多彩な人々に出会う
- ・「カラー＝個性」→「色」という一字に昇華
- ・村の人々それぞれの色を映像で表現する

■ 制作プロセス

- ・1日目：ロケハン。村全体を回り、様々な方との出会いを通じて構成を考察
- ・インタビューで「好きな色」を聞くと、最初は服の色など身近なものを答える方が多い。「この村と関わって感じた色は何か」を引き出す問いかけに工夫
- ・素材不足を感じ、予定外の2日目の追加撮影を敢行（電車と40～50分の徒歩移動）
- ・学生の声・姿は一切映像に入れず、村の人々だけを主人公にする徹底した「黒子」姿勢

■ 映像の特徴

- ・登場する方々がそれぞれの「色」を語るインタビュー形式（赤・緑・青・オレンジ...）
- ・道の駅運営会社代表：「村の魅力は人。人それぞれの違い、個性が面白い＝赤」
- ・サイクリストの方：「自然の緑と青空の中で気持ちよく走れるのが一番」
- ・ナレーション・BGM・編集で村の空気感を丁寧に表現

■ クライアントの評価

「なめてました。学生がこんな映像を作るのは今まで見たことがない」という言葉をいただき、映像の質・コンセプトの独自性が高く評価された。事前情報なしで「率直な感想で作ってほしい」というオーダーに見事に応えた。

■ 審査員コメント

「圧倒的にデザイン・アートとして語りかけてくる映像の力。村の色の多彩さに気づかせてくれた。こんだけ素敵な動画は普通に売れますよ」（杉岡審査員）

「学生の声・姿が一切入らず、主人公を村の人にした姿勢が素晴らしい。人それぞれの思いを表現するこの手法は他の地域でも展開できる」（鈴木審査員）

